



西村証券

チーフストラテジスト
門司総一郎の

ウィークリーレポート

2022年
9月2日
発行

第146回

「近づく中間選挙」

～期待されるバイデン・パウエルの火消しぶり～

初めに

先日のジャクソンホール会議においてFRBのパウエル議長が利上げ継続に言及したことで、株式市場は大荒れとなりました。このように、まだ株式市場ではインフレへの警戒感が強いようですが、自分は、米国に限ればインフレは既に鎮圧されつつあると見ています。今回はそう考える理由についてお話しします。

インフレは今年7～9月までに沈静化

その理由は、米国の中間選挙が11月に控えている、ということです。就任以来政策が思うように進まないバイデン米大統領にとって、大統領選に次いで重要な選挙と言われる中間選挙を落とすことは許されません。その中間選挙で重要な争点になるとと思われるインフレ沈静は至上命題でしょう。インフレの影響を大きく受ける民主党左派がバイデン氏の支持基盤とあってはなおさらです。中間選挙は11月ですが、この時になってインフレが沈静化しても間に合いません。バイデン氏とパウエル議長としては、遅くとも7～9月中にはインフレを沈静化させたいと考えているでしょう。

インフレ沈静化のために世界を翔けるバイデン氏

バイデン氏は自ら動きます。先ごろ、人権問題で対立しているサウジアラビアを訪問し、ムハンマド皇太子と会談しました。この会談では何も決まりませんでした。その後のOPECプラスでの原油の増産に繋がった、との見方もあります。また、トランプ元大統領が設定した中国からの輸入に対する関税がインフレの一因と聞くと、関税撤廃の道筋を探るなどインフレ撲滅のために手段を尽くしました。この努力は称賛に値すると思います。

インフレ率はピークアウト？

このバイデン氏の努力は報われつつあるように見えます。今年7月の米消費者物価上昇率（前年同月比）は、前月の9.1%から8.5%へ、3ヶ月ぶりに低下しました。これについて、直近の状況だけではまだ分からない、と思う方も多いでしょうが、自分はそうは思いません。米国のインフレはバイデン・パウエルコンビが意図したように沈静化に向かっている、と思います。ここから米国の景気減速が見込まれるためです。

(裏面へつづく)



チーフストラテジスト
門司さんにきいてみよう!



西村証券株式会社 NISHIMURA SECURITIES Co., Ltd.
京都市下京区四条通高倉西入立売西町65番地(本社)
TEL:075-221-9390(本店営業部)

金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第26号
加入協会:日本証券業協会 主な事業:金融商品取引業
指定紛争解決機関:特定非営利活動法人 証券・金融商品あっせん相談センター

本書面は特定の金融商品の勧誘を目的として作成したのではなく、あくまで情報提供を目的とした書類です。書面上の株式市場見通し等は、本書面作成時の当社予想ですが、その後の市場動向・結果・影響等について当社が保証または責任を負うものではありません。また内容については予告なしに変更される場合もあります。本書面の著作権は当社に帰属します。当社の文章による承諾なしに、第三者への配布・コピー等はご遠慮ください。

ISM指数の動きに注目

米国のISM景況感指数は同国経済の先行きを占う指標として注目されていますが、今年6月の53から7月に52.8へ低下しており、米国経済が減速していることを示しています。次回は8月分になりますが、さらに低下するようであれば米景気の変調が明らかになり、インフレに対する懸念が薄らぐこともありそうです（結果は52.8）。以上、中間選挙との関係などからインフレについて論じてきましたが、見事な火消しを見せたバイデン・パウエルコンビには敬意を表したいと思います。

当レポートでは、毎年年末に翌年のびっくり予想を作成しています。昨年は3番目の予想として「ファイヤーファイターパウエル、果敢な金融引き締めで早期のインフレ沈静に成功」をあげましたが、的中の可能性が出てきたと思います。

（今回号は2022年8月31日に執筆されました）



チーフストラテジスト
門司さんにきいてみよう!

